

# 赤ちゃんの家さくらんぼ

## 平成 26 年度事業報告

### 1、基本方針

<こんな乳児院をめざします>

- ① 子どもたちに「もうひとつのあったかいお家」となるように乳児院づくりをすすめます。
  - ・医療的ケアの必要な児童の措置変更先を探りつつ、幼稚園通園し、日々成長発達できるように養育支援をした。
  - ・小規模グループケアハウス「ももの家」でゆずグループ(10-18) りんごグループ (10-16) の2ユニットの生活体験を行った。(ゆず G;4名 りんご G 4名 本体 ; 5名)
- ② 保護者とともに子どもを育てます。
  - ・誕生会、夏祭り、クリスマス会への参加を呼びかけ、子どもとふれあう機会を設けた。
  - ・さくらんぼだよりを毎月送付し、子どもの成長発達の様子を伝えた。また、面会、外出、外泊の機会が持てるように、家庭支援専門相談員を中心として、保護者へ働きかけを行った。
- ③ 職員が生きいきと働き続けられる乳児院をめざします。
  - ・年齢差のあるゆずグループの養育や、他のグループの職員配置について、話し合いを重ね、フリー遅番の職員の配置をした。
- ④ 地域に根ざした子育て支援センターをめざします。
  - ・担当地域の里親実習を積極的に受け入れ、地域で子育て支援を拓げるように勧めた。
  - ・里親支援専門相談員が担当地域の里親宅へ訪問し、相談支援し、児童相談センターと連絡調整を行った。

### 2、専門分野別の組織作りと役割を明確にする。

- 保育 ・クラス会議で担当児の発達状況を把握し、関わり方等について検討し、対応した。  
・新任職員の振り返りの時間をもち、研修に努めた。
- 看護 ・子どもたち一人ひとりの健康状態を把握し、健康管理に努めた。  
・症状観察により、セカンドオピニオンとして受診し、改善のための手立てを行った。
- 食育 ・クラス会議で、離乳食について積極的に学ぶ時間を取り、発達に応じた対応を試みた。  
・小規模ケアハウスでの炊飯、おやつ作りなど目の前で調理し、子どもたちの五感に触れる食育実践に取り組んだ。
- 事務 ・事務員を新たに配置し、業務分掌の見直しを図った。

<写真> ・毎日のさくらんぼだより、アルバム制作の写真提供、保存に努めた。

<被服> ・パジャマ、肌着等は細目に購入し、季節の衣類の整理整頓を行った。

<日用品・ミルク>

- ・昨年に引き続いて棚に整理し、見やすく在庫管理、発注納品できた。
- ・医薬品管理、医療行為の場所を養育室に近い所に異動し、管理や作業しやすい環境になった。

<オムツ> ・在庫管理に心がけ、子どもたちにあったオムツの補充が出来た。

<製作> ・子どもたちのマークをわかりやすいものに製作したり、子どもたちの作品を飾る等季節感味わえる壁面作りを行った。

<行事> ・各担当が中心となり、行事計画を作成し、成長に合わせて子どもたち一人ひとりが楽しめる取り組みとなるようにした。  
・誕生会、夏祭り、クリスマス会等は里親、保護者にも呼びかけることが出来、子どもたちの成長の様子を伝えられる場を持つことができた。

<文集（冊）>愛知県下の他施設とともに、文集作りに積極的に取り組んだ。

### 3、各種会議の充実、決定事項の徹底化を図る

- ・会議録は早めに作成し配布するとともに、決定事項の周知徹底化のために、ミーティングノートに挟み、職員全員が通読できるように改善した。
- ・意見箱を設け意見、質問等出しやすい環境にした。

### 4、家庭支援をすすめる

- ・電話、面会、外出、外泊等親の状況を細やかに把握して記録し、支援の方向を児童相談センターと共有の上取り組んだ。
- ・毎月ケース会議を実施し現況確認、対応方法や支援方針の修正を行いその他必要に応じて、面談、家庭訪問、施設見学、地域サポート会議への参加等、家庭引き取りや措置変更へとつなげた。

### 5、里親支援を進める

- ・担当地域のサロン参加、里親宅への訪問を行い、相談支援に積極的に取り組んだ。
- ・マッチング中の状況をファイルし、かつ職員会議で報告し全体把握できるようにした。
- ・里親実習では、面談の中で振り返りの時間を設け、質問に答えたり、制度説明を行った。

## 6、職員の資質向上および力量を高める

- ① 「被措置児童等虐待防止のために」（職員向けハンドブックを職員全員に配布し、施設内虐待防止に取り組んだ。
- ② 子どもに対する関わり方について話し合いの場を設け、意見交換を行った。
- ③ 研修計画に基づいて、院内、院外研修に参加し、報告会にて共有の場を持った。
- ④ 自己評価、フィードバックを行い、さくらんぼの全体のレベルアップにつながるように課題の明確化に努めた。
- ⑤ 小規模Gケアグループで家庭的養護をする中で、子どもたちが家庭で行う生活経験を積み重ねていくことを大切に各ユニットで、取り組んだ。
- ⑥ 講演「職場の絆を育むコミュニケーション」で犬山さくら保育園や母子生活支援施設キルシェハイムの職員と共に学習会を行った。

## 7、設備・施設整備

- ・チャイルドシート、ベビーカー、洗濯機、風呂送風機、TV の購入及び、厨房食洗機の入れ替えを行った。
- ・親子相談室を事務所内から別の場所に設けて、より相談しやすい環境設定に変更した。

## 8、防災について

- ・小規模グループホームで2グループ実施に向けて、災害時避難体制を見直し計画を立て避難訓練を実施し、危険個所の発見や改善策提案に取り組んだ。

## 9、資金の計画

- ・短期支援事業(犬山市・一宮市・北名古屋市)と契約を行った。
- ・家庭生活体験事業を申請し、補助金収入にて、チャイルドシート、ベビーカーの購入、外出外泊時の手当てを支給した。
- ・運営費補助金（福祉ポイント加算）は3ポイントとなった。